

令和6年度秋田県総合政策審議会 第3回産業・雇用部会 議事録要旨

1 日 時：令和6年9月3日（火） 13：30～15：00

2 場 所：県庁第二庁舎3階31会議室

3 出席者

○ 産業振興部会委員

株式会社ドレッシング・エー 代表取締役 伊藤 明子

北日本コンピューターサービス株式会社 主任 舘岡 加奈子

株式会社LOCAL POWER 代表取締役 寺田 耕也

株式会社フルヤモールド 代表取締役 古谷 美幸

○ 県

産業労働部 次長 佐藤 功一ほか 各課室長 等

4 伊藤部会長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。今回最後の会議になるが、今日も有意義な意見交換を行いたい。

5 議事

●伊藤部会長

それでは議事に入る。

議事(1)今年度の提言に向けた検討について、意見交換を行う。提言毎に事務局から説明をお願いする。

□高橋産業政策課長

・資料ー1「提言書（案）」により、提言1について説明

●伊藤部会長

それでは質疑に入る。事務局の説明に対して、質問や意見等はないか。

○寺田委員

(3)②県内企業及び県内大学等のシーズ・ニーズの見える化について、前回の部会で1分間の紹介動画を作成するということを提案したが、中国発のショートドラマというプラットフォームがSNSで広がっており、このような紹介手段を活用するのはどうか。ショートドラマはインターフェースが優れており、ティックトックのように次から

次へと動画を視聴するのに優れている上、拡散機能も充実している。

また、県内企業の経営者の意識改革、リスクリングについても取り組む必要があると考えている。例えば、M&Aについては、県内の経営者の間では、会社を売却するとか、会社を乗っ取られたというイメージが強く、M&Aに対する印象が良くないことから機会損失や黒字倒産につながっているケースがある一方で、経営者がいなくなった後も社会のために役立てるという手段としては有効であり、東京では一つの選択肢になってきている。県という信頼のある組織が率先して経営者に対するリスクリングを行うことによって、県内企業の経営者の意識改革につなげてほしい。

□高橋産業政策課長

・資料－１「提言書（案）」により、提言２について説明

●伊藤部会長

それでは質疑に入る。先ほどの事務局の説明に対して、質問や意見等はないか。

（質問や意見等なし）

続いて提言３について説明をお願いします。

□高橋産業政策課長

・資料－１「提言書（案）」により、提言３について説明

●伊藤部会長

それでは質疑に入る。先ほどの事務局の説明に対して、質問や意見等はないか。

○寺田委員

他県の成功事例を見てみると、「伝統工芸品×ブランド」「伝統工芸品×テクノロジー」という方向性で取り組んでおり、参考にすべきである。

●伊藤部会長

続いて提言４および共通事項について説明をお願いします。

□高橋産業政策課長

・資料－１「提言書（案）」により、提言４および共通事項について説明

●伊藤部会長

それでは質疑に入る。先ほどの事務局の説明に対して、質問や意見等はないか。

○寺田委員

「提言の背景」にある「ベンチャー企業やスタートアップ等の誘致を進める必要がある」に対応する具体的な方策として、秋田でビジネスの実証等を行うことに対する支援を盛り込んでどうか。

●伊藤部会長

提言書の最後の取りまとめについては、私に一任いただくことでよろしいか。

(異議なし)

●伊藤部会長

続いて議事(2)その他に入る。今回で部会は最後になるので、最後に皆様から、一言ずつ本部会に参加して感じたことを簡単にお話いただきたい。

○館岡委員

普段交流することのない業種の方々のお話を聞くことができ、視野を広げることができた。県側からの意見を聞いて、思っているよりも県で取り組んでいることが多いということが分かったので、今後私自身も県の取組について周知していきたい。

また、県のPR不足という委員の指摘が、実際に提言書に反映されているのを見て、実りのある会議であったと実感することができた。

○寺田委員

県の取組を知る良いきっかけになった。また、県の取組の周知については、今後も個人的にも一助になりたいし、意見が反映された施策は活用していきたい。

○古谷委員

提言書作成に向けて調べたり、考えることにより私自身も知見が広がった。この提言書によって、すぐに秋田が変わっていくことがないとしても、子どもにとって秋田が将来戻ってきたいと思えるような場所になるための一助になれば幸いである。

●伊藤部会長

今年も難題も多く、私自身も悩んだりしたが、委員の多様な考えや意見を聞くことができて、良い勉強の機会になった。

●佐藤産業労働部次長

今年度の部会を振り返ると、「連携」と「見える化」がキーワードになったと思う。例え

ば、提言1の中でも、企業の連携の推進、県内企業と県内大学を結ぶコネク機能の強化、ニーズ・シーズの見える化、外部人材の活用、リスクリングの見える化などのキーワードが出てきた。館岡委員からPR不足という話もあったが、そもそも見える化ができていれば、その点も解消されるので、県として意識しながら様々な施策に反映していかなければいけない。これが県内企業の挑戦意欲をかき立て、県内の産業の発展や変革につながる。部会は今回で最終回であるが、普段からお気づきの点があればお声がけいただき政策にも反映していきたい。

6 閉会

●伊藤部会長

それでは本日の議事をすべて終了する。

—— 議事終了 ——